

岩木川改修工事現場を視察

11月28日（月）、鶴田町の自主防災組織の代表者と相川町長が岩木川の改修工事現場を視察し、防災への意識を高めていました。

今回の視察は、菖蒲川、大性、木筒、野木の4地区の自主防災組織を対象に実施。参加者は、平成25年に発生した台風18号による岩木川の浸水被害や減災対策などについて、青森河川国道事務所の職員から説明を受けた後、岩木川の保安橋架け替え工事や堤防のかさあげ工事の現場を視察しました。

参加した菖蒲川防災会の佐藤常義会長は「説明を聞いて、工事の内容がわかりました。災害から身を守るために、早め早めの行動をとらないといけないことを改めて感じました」と述べていました。



△改修工事現場を視察する自主防災組織の代表者と相川町長



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。

籠いっぱいリンゴを持って登校

児童が学校給食用のリンゴを家庭から持ち寄る「リンゴ一籠運動」が12月12日（月）、胡桃館小学校で行われました。雪がちらつく中、児童たちはリンゴを入れた籠を持って登校し、この日は、8箱分（約160kg）のリンゴが集まりました。

町では、食育や地産地消を推進する目的で、町内の小中学校の学校給食用に、毎年、地域の生産者からリンゴを提供していただいております。

登校する児童に、相川町長は「おいしそうなリンゴだね。持ってきてくれてありがとう」と声をかけていました。1年生の佐藤天音^{あまね}さんは「給食でリンゴをみんなに美味しく食べてもらいたいです」と頬を赤くしながら笑顔で話していました。



△籠いっぱいのリンゴを持って登校する児童

中学生から町への要望を伺う

まちづくりの参考として、町が地域の団体と意見交換をする「鶴の里まちづくりミーティング」が12月12日（月）、鶴田中学校で開催され、同校の生徒会の役員から普段の生活を通して感じている町への意見や要望を伺いました。

生徒からは「鶴田町に入院できる病院がないのはなぜか」「給食にごは^{めま}くだけでなく、パンや麺も入れてほしい」という要望が生徒や保護者からもあげられている」といった意見が出されました。

生徒会長の沼宮内拓人さん（2年）は、「町長と話ができたのは貴重な経験です。自分たちが伝えた意見が実現される可能性があることがわかって嬉しいです」と手応えを感じていました。



△相川町長と意見交換をする鶴田中学校生徒会役員の皆さん（右）



△（左から）認証を受けた原田さん、工藤さん、伊藤さん

グローバル GAP の認証を取得

農産物の安全性を認証する国際規格「グローバル GAP」を取得した町の生産者が12月12日（月）、相川町長に取得の喜びを報告しました。

認証を受けたのは、鶴翔りんご GAP 部会の原田正さん、工藤浩さん、伊藤義人さんの農地。GAP は農産物などの安全確保や環境保全を目的とした認証制度のことで、同部会では平成 27 年に日本版 GAP「JGAP」を取得。今後の農産物の海外輸出には、グローバル GAP の認証取得が有利になると考え、昨年 10 月に認証を受けました。

原田さんは「私たちが認証を受けたことで、若い生産者も農業の勉強を頑張ろうという気になってくれればうれしいです」と述べていました。

餅つきで児童が防犯意識を高める

12月17日（土）、梅沢小学校で、「防犯もちつき会」（五所川原地区防犯協会梅沢支部主催）が行われ、参加した児童が餅をついて地域住民との交流を深めながら、防犯の意識を高めました。

餅つきは、3つの臼に別れて行われ、児童たちは保護者や先生の手を借りながら、「よいしょー！」と力強く餅をついていました。ついた餅は、お雑煮やお汁粉、きな粉餅にして参加者に振る舞われ、児童たちはお腹いっぱい食べていました。1年生の蒔苗勇人君は「餅つきは初めてで難しかったけど、楽しかったです」と話していました。

会場内には、交通安全や防犯を呼び掛ける標語が貼られ、児童による発表も行われました。



△きねを使って、「よいしょー！」と力強く餅をついていました。